

安部元首相殺害事件に思うーなぜいままで旧統一協会問題はマスコミにとりあげられなかったのか？ー

安部元首相が殺害された直後の岸田首相が「これは民主主義への冒涇」と発言されたことに対して私は少し違和感を感じた。このようなテロ行為は許されないけど、一人の自殺者がでた財務省の公文書偽造事件などをはじめ、安部元首相が強く関与したにもかかわらずこれらの問題が民主的に解決されてきたとはどうてい言い難かったからである。

その後、この容疑者の詳しい生活史が報道されてきた。容疑者の母親が旧統一協会に入会し莫大な寄付をし続けたため、容疑者を含めその家族の人生が破滅したという説明であった。しかし、旧統一協会の問題については今回の事件が起きるまで、マスコミはいっさいとりあげなかった。私が彼の立場であったら、容疑者と同じように自分の命と引き替えても旧統一協会を壊滅させたいと思ったかもしれない。

容疑者は状況を以下のように冷静に分析し、目的を達成する方法を考えて実行したことに対して私はある程度は理解できる。

民主的に社会に訴えても、国や国会議員は旧統一協会のことを話題にしてくれないだろう。家族内で覇権を争っている旧統一協会の特定の幹部ひとりを殺害しても、残りのメンバーが喜ぶだけで自分の思いをとげられない。旧統一協会に関与する政治家のなかでも、岸元首相から3代にわたり強い関与があったとされる安部元首相を殺害できれば、世間にこの問題を取り上げてもらえるのではないだろうか？ と。

旧統一協会に関する種々の問題を議論のテーブルの上ののせるためにはこれ以外の方法はなかったのだろうと思う。

安部前首相には気の毒ではあるが、彼が殺害されたことによって、はじめて旧統一協会の問題がマスコミに登場したのは事実である。そして毎日のように政治家との接点が報道されている。しかし、議員から祝電の1本でもあれば鬼の首をとったのかのように報道するマスコミの態度には辟易する。

むしろ、なぜいままでこの問題をマスコミがとりあげなかったか、なぜ国会で議論されなかったのかという原因を解明することのほうが重要ではないだろうか。

2022.9.16